

EADに基づくアーカイブズ資料目録のデータベース化

Construction of Electronic Finding Aids based on Encoded Archival Description for Archival Database

難波忠清、五島敏芳¹⁾、高岩義信²⁾、松岡啓介、花岡幸子、安倍尚紀³⁾、木村一枝、
関本美知子⁴⁾、木村克美⁵⁾

核融合研、¹⁾京大、²⁾筑波技術大、³⁾東京福祉大、⁴⁾高エネルギー加速器機構、⁵⁾分子研 (名誉教授)
NAMBA, C., GOTOH, H.¹⁾, TAKAIWA, Y.²⁾, MATSUOKA, K., HANAOKA, S., ABE, N.³⁾,
KIMURA, K., SEKIMOTO, M.⁴⁾, KIMURA, K.⁵⁾

NIFS, ¹⁾Kyoto Univ., ²⁾Tsukuba Univ. of Tech., ³⁾Tokyo Univ. and Graduate School of Social Welfare, ⁴⁾KEK,
⁵⁾IMS(Professor Emeritus)

1. 調査研究の背景と目的

2005年1月、NIFSに核融合アーカイブ室が設置された。我が国の大学における核融合研究開発が如何に進められてきたかについて歴史的な資料に基づき明らかにしていくことは、社会と他分野の研究者に対する説明責任を果たすためにも、また今後の研究の進展を図るためにも必要不可欠である。アーカイブ室では、このような観点から、関連する資料の収集・整理・保管・提供に努めてきた。その結果、すでに20,000点余の資料がデータベースに収録された。

これらの史料等が広く活用されるためには、収集・整理された史料等がデータベース化され、さらに適切な検索手段を具備して公開されることが求められる。核融合アーカイブ室では、検索手段の標準化およびアーカイブズ資源の共有化を目指した共同研究を進めている。これにより核融合関連に留まらず、同様なアーカイブズとの、資源のより広い共有化を実現しようとするものである。今回はこの研究について報告する。

2. アーカイブズの記述と検索手段の標準化 (EADに基づく検索手段の構築)

我々は、上記の検索手段としてEAD (Encoded Archival Description, : 符号化記録史料記述) を採用し、核融合アーカイブズデータベースを構築し、web上で公開することを目指している。このEADを採用したのは、1) これが各国の主要公文書館でも採用されている史料目録記述の国際標準であり、2) webによる公開に適している、3) 我々がすでに作業用として構築しているデータベース (FileMaker Pro ベース) からの移植が容易であることなどである。

EADは、アーカイブズの検索手段 (finding aids) を電子的に符号化するに当たって、記録史料を記述するために必要な要素は何かという意味内容を具体的に配列・構成するための規格である。また、EADが記録史料カタログを記述する上で持つ卓越した特徴は、その「階層構造」である。アーカイブ室では、階層として: Repository Level

= 核融合科学アーカイブズ、Collection Level = 史料の出所 (史料提供者個人、または組織)、Series Level = 個々の史料保存箱、File Level = 1個のファイルに収められた史料の集合、Item Level = 個々の史料と設定し、構築を進めている。図1に示すスクリーン画面は、EAD/XML検索システムの上に準備された検索画面の一例である。このEAD化されたデータベースは、国文学研究資料館の「史料情報共有化システム」及び「EAD/XML検索システム」を用いて構築されている。これにより、同じく国文研の「EAD/XML検索システム」に参加している他の史料館などの史料目録を同時に横断的に検索することが可能となる。核融合研究に関する歴史的史料は、すべてが我々の手許に集約されているわけではない。予期しなかった大学等の史料室において収集されていることも十分予想される。湯川記念館史料室 (京大)、坂田記念史料室 (名大)、朝永記念室 (筑波大) など関係の深い史料室もこのシステムに参加している。横断検索の機能を用いることにより、これら史料室の目録も同時に検索が可能であり、我々が保有しない史料の発見など、その効果は大いに期待される。



図1 EAD/XMLに基づく検索画面 (一例)